

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	京都市深草児童館	施設種別	児童館 (旧体系：)
評価機関名	特定非営利活動法人京都府認知症グループホーム協議会		

令和2年3月15日

総 評	<p>京都市深草児童館は、昭和49年10月に伏見区で2番目に開設された児童館で、今年で45年目となります。2015年に出された40周年記念誌には、その当時貢献された地域の方々からのメッセージが掲載されていて、児童館に対する地域からの多くの支援と期待があったことを伺い知ることができました。長い歴史の中で培った地域との信頼関係と法人のスケールメリットを活かしながら、児童館理念「みんなで育てる みんなが育つ みんなが支える深草児童館」の実現を目標に児童館活動を展開しています。「ようこそ児童館へ」の挨拶から始まるパンフレットや、地域の季刊誌「くらしの友 深草」で紹介の「子ども食堂（ふかくさ亭）」や学童クラブのドッジボール（深草キッズ）等で伺い知ることができました。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育の質の向上に向けた取り組み 職員研修が法人本部・未来事業部の下で充実しています。職員研修に京都市児童館連盟や法人本部主催のキャリアパス研修を取り入れ、職種別・階層別・テーマ別研修で保育の知識と技術を取得させています。また、新人の教育指導に「プリセプター/プリセプティ」制度を取り入れています。一人の先輩職員が一定期間、現場で新人職員に1対1で関わり、新人のリアリティショックを和らげながら、保育の実践能力を現場で獲得させています。この新人教育指導の効果を高める為に、プリセプターとプリセプティをサポートする指導者を置き、プリセプターとプリセプティが共に育ち合う環境を構築しています。 ● 地域に支えられ地域を支える児童館 創立以来45年間、地域とともに歩んできた児童館であることを大切に、深草ネットワーク会議の構成員となり、深草児童館協会の地域の関係機関や団体から支援を得、地域に根差す児童館事業と子育て支援センターの役割を明確にしています。また、今年、創立70周年を迎えた法人が掲げたコーポレートスローガン「夢、そして誇り。この街で・・・」に基づき、法人の医療部門や介護部門、子ども未来事業部の十数か所の保育園や児童館、民間学童クラブ、子ども園療育等と連携し、地域や利用者のニーズに幅広く対応しています。職員は法人内の医療・介護・保育等の職員と交流する機会にも恵まれ、子育ての専門職としての力量を高めています。地域に専門学校や大学を多く持つ特徴を活かした学生ボランティアや実習生との繋がりが、乳幼児クラブと児童館クラブのサービスの質を豊かなものにしていきます。 ● 利用者の満足度の向上への取り組み 理念「みんなで育てる みんなが育つ みんなが支える深草児童館」に基づいて、児童館を地域の0歳児から18歳までの誰もが利用できる地域の子育て支援のための施設と位置づけています。乳幼児クラブと学童

	<p>クラブの保護者に対して、保護者満足度アンケート(保護者セグメント調査)を行い、保護者のニーズや要望をプログラムに採り入れ、児童館であそぼう!とホームページや広報誌「のびのび通信」、「児童館だより(学童クラブ・自由来館向け)」、地域の広報誌「深草」等で情報を提供し参加を呼びかけています。地域の未登録の乳幼児から高校生までの子どもが自由に参加できる「深草あそぼうDAY」や登録制の年齢別乳幼児クラブ、中高学生と赤ちゃんとの交流「クリスマス会」、食を通して豊かな人間関係を築くことを目的とした「子ども食堂/ふかくさ亭」、四館交流のドッジボール交流会、「夏まつり」等を地域の関係機関と共同で開催しています。</p> <p>●利用者が知りたい情報がパンフレットや広報誌にやさしく解りやすい表現で記載されています。また、地域の広報誌にも館長自らが児童館のイベントへの参加を呼びかけています。児童館が案内するイベントの目的と内容が受け手側に良く理解できる広報誌であると思われます。</p>
特に改善が望まれる点(※)	<p>●実習生受け入れマニュアルと受け入れに関する姿勢を明文化し、看護助産学校の保育体験、中学校のチャレンジ体験等の実習生を積極的に受け入れています。しかし、指導を担っている職員等は実習指導者のための研修を履修しておられませんでしたので、本部主導のキャリアパス研修のプログラムに実習指導者のための研修を組み込まれてははいかがでしょうか。</p> <p>●保護者が直接、企画や運営等に関わられたイベントは無いとの事でしたが、児童館が企画・運営された各種のイベントには多くの保護者が協力的に参加されていました。保護者の得意とする事や場面で主体性や自発性を発揮していただく様に、児童館から働きかけられてははいかがでしょうか。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【児童館版 共通評価基準】

評価結果対比シート

受診施設名	京都市深草児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 京都府認知症グループホーム協議会
訪問調査日	令和2年2月18日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。	1	① 理念が明文化されている。	a	a
		2	② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	a
	I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。	3	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	a	a
		4	② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	a	a

[自由記述欄]

1. 児童館理念(スローガン)「みんなで育てる みんなが育つ みんなが支える深草児童館」を「児童福祉法」「京都市児童館活動方針」及び、法人の理念等に基づいて策定している。パンフレットに掲載し、職員室やホールに掲示している。また、法人理念と法人コーポレートスローガン「夢、そして誇り。この街で…」をホームページ及び複数の利用者向けや地域向けの広報誌に掲載している。

2. 基本方針を児童館理念に基づいて策定している。児童館は「40周年記念誌」を創立40年を迎えた2014年に発行している。

3. 児童館は4年後の2024年に開設50周年を迎える。40周年に記念誌を発行したと同様に50周年記念誌の発行に向けて振り返りを行っている。

4. 利用者は法人のホームページや広報誌、地域情報誌「くらしの友 深草」・「京都市の児童館」、「40周年記念誌」、児童館のパンフレット、広報誌「じどうかんだより」「学童クラブだより」等で法人の理念や基本方針を周知している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	5	① 中・長期計画が策定されている。	a	a
		6	② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	a	a
	I-2-(2) 計画が適切に策定されている。	7	① 計画の策定が組織的に行われている。	a	a
		8	② 計画が職員や利用者等に周知されている。	a	a

[自由記述欄]

5. 児童館の中長期計画を策定している。計画は2024年(50周年)構想として、小学生の自由来館促進、中高生を含むボランティアの育成、地域の幼児及び学童クラブとの交流、子ども食堂「ふかくさ亭」の拡充等を打ち出している。

6. 中長期計画を踏まえた2019年度の年間活動計画書を策定している。学童クラブの計画書は、機能別(子どもの育成 子育て家庭支援 地域福祉促進)に目標と取り組み内容を整備している。行政と法人本部に提出している。

7. 児童館事業は法人本部・子ども未来事業部・事業部所属の児童館・保育園と一体化し組織的に運営を行なっている。月2回開催の職員会議で計画の妥当性や有効性について協議し、単年度の実施状況の総括と次年度の活動計画を立案している。

8. 理念と方針に基づいて年間の事業計画を職員総意により策定している。広報誌『じどうかんだより』に記載し、運営協力会、深草子どもネットワーク会議等を介して、地域の小学校や就学児童の家庭等に配布している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	9	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a	a
		10	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	a	a
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	11	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	a	a
		12	② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	a	a

[自由記述欄]

9. 深草地域や児童館の広報誌等に館長自らが児童館の活動内容について紹介している。館長の業務は法人の「児童館長業務マニュアル」に定めている。全職員に対して行う「職員やりがいアンケート」で館長の評価を行う仕組みになっている。

10. 館長は定期開催の「深草子どもネットワーク」会議等に出席し、児童を取り巻く環境や関係法令等を理解している。また、法人のイントラネットで随時、職員ともに確認することができる。

11. 館長は児童館活動の質の向上について、朝礼・昼礼、月2回の職員会議で職員と協議している。また、法人の子ども未来事業部及び法人グループの児童館館長会議等で協議している。法人コーポレートスローガン「夢、そして誇り。この街で…」が、今年創立70周年を迎えた法人職員の行動指針となっている。

12. 館長は児童館の人事・労務・財務の分析等を法人の本部や子ども未来事業部と行っている。毎月、行政に報告するとともに、年度末に法人に「事業費加算に関わる活動報告書」で報告している。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	13	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	a	a
		14	② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	a	a
		15	③ 外部監査が実施されている。	a	a

[自由記述欄]

13. 館長は法人内外の会合に出席し事業経営を取り巻く環境の把握に努めている。事業経営に関して重要と判断した案件は月例の法人内児童館館長会議で法人本部や子ども未来事業部の意見を仰ぎ迅速な解決に努めている。
 14. 毎月の利用状況から利用者の数・利用率・コスト等を分析・評価し、京都市に「年間利用状況報告」で報告している。子ども未来事業部には、年1回、対策を含めて報告し中長期計画・年度事業計画に反映させている。
 15. 行政による書類監査と実施監査と法人の内部監査、京都市監査局よる外部監査を受けている。監査の結果を事業運営に役立てている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	16	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	a	a
		17	② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	18	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	a	a
		19	② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a	a

[自由記述欄]

16. 法人が定めた「人材の確保・育成」に基づき、保育士資格を有する者を最優先とし、適性検査【V-CAT】・作文・面接等を行い、児童館運営に必要とする人材の確保に努めている。産休の代替に常勤希望者を雇用している。
 17. 職員の人事考課は法人イントラネット内の法人独自の人事考課表(5つの自己目標)で行っている。自己評価、二次・三次評価と進み、本部が一括管理し、結果を職員一人ひとりにフィードバックしている。評価は自己が定めた目標を基本としている。
 18. 年2回、職員の自己申告をもとに館長が個人面談を行っている。職員一人ひとりがイントラネットの「職員満足度調査(やりがいアンケート)」に答えている。アンケート100項目から職員の数値に表れない願いや思い等が引き出せる仕組みになっている。
 19. 総合的な福利厚生事業「リロクラブ」に加盟している。また、法人の福利厚生事業に、年1回10日間連続休暇「リフレッシュ休暇」や介護・保育特別休暇、時間短縮勤務等がある。これらをまとめた小冊子「福利厚生ガイドブック」を全職員に配布している。

	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 人材の確保・養成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	20	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a	a
		21	② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	a	a
		22	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a	a
	II-2-(4) 実習生の受入れが適切に行われている。	23	① 実習生の受入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している。	b	b
		24	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	a	a

[自由記述欄]

20. 21. 22. 法人の基本方針や目指す職員像に職員の教育・研修に関する基本方針を明記している。職員は児童館学童連盟の「京都市児童館・学童保育所職員研修・科目履修表」及び法人の「年間研修計画キャリアパス」の階層別・段階別・テーマ別研修を受講している。職員会議や職員ミーティングで伝達研修を行ない、研修の成果を職員間で共有している。研修プログラムの見直しは主催者側で行っている。
 23. 24. 「実習生マニュアル」に受け入れ方針等を定め、看護助産学校や中学生のチャレンジ体験等の実習生を受け入れている。実習計画は依頼校と作成し、実施記録を残している。中学生「チャレンジ体験」実習計画は個々の学生の要望を取り入れて共同で作成している。実習の受け入れを職員が保育を振り返る機会と位置づけ、職員会議で内容の詳細を検討している。実習指導者に対する研修は行っていない。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-3 安全管理	Ⅱ-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	25	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a	a
		26	② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a	a

[自由記述欄]
 25. 「防災対応マニュアル」「緊急管理マニュアル」「緊急時の連絡体制」「緊急連絡網」に基づき、法人全体で利用者の安全確保のための体制が整備されている。職員会議で対応策を検討し、法人本部や事業部と連携し的確に対応している。
 26. 利用者の安全確保のために、毎月15日を「安全の日・整理整頓の日」に定め、「安全点検表」を使って、児童館内と周辺の安全性を目視・触手で確認している。安全確保・事故防止に関する職員研修を行なっている。「ヒヤリハット報告書」で収集した事例や「事故報告書」を基に事故の発生予防と再発防止に努めている。事故報告書は改善策まで記録している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-4 地域との交流と連携	Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	27	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	a	a
		28	② 事業所が有する機能を地域に還元している。	a	a
		29	③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	a	a

[自由記述欄]
 27. 深草児童館協会や地域の関係機関と連携し児童館と地域との関わりを大切にしている。町内会の一員として、テビッコ広場の夜間照明、樹木の剪定、地蔵盆の備品(長椅子・パイプ椅子等)の貸出を行っている。児童館クラブや幼児クラブの未登録児童も定めた時間と場所で自由に児童館を利用している。町内会・関係機関等の協力により地域に「じどうかんだより」等の広報誌を配布している。
 28. 乳幼児親子・学童・高校生等が交流する「プチ夏まつり」を開催している。近隣の施設や関係機関と連携し「認知症講座」や「エコ教室」、地域清掃等を行っている。月3回、地域交流・多世代交流型の子ども食堂「ふかくさ亭」を運営協会と協働で開催している。また、小学生の下校時に合わせて職員が月曜から金曜の約30分間、近くの交差点で見守りを行っている。
 29. 「ボランティア受け入れマニュアル」に基づき、人材育成・地域貢献・地域交流等を目的に積極的に受け入れている。現在、年間多くのボランティアが児童館クラブの学習や夏まつり等のイベントを支援している。また、実行委員会方式で児童と取り組む「Xmas会」や「新入生歓迎会」等で活躍している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-4 地域との交流と連携	Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	30	① 必要な社会資源を明確にしている。	a	a
		31	② 関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
	Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	32	① 地域の福祉ニーズを把握している。	a	a
		33	② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a	a

[自由記述欄]
 30. 深草小学校区子育て支援ネットワーク会議や深草児童館運営協会等の地域の関係機関と連携し「基幹ステーション事業」や「ふれあいランド」等で地域の子どもの健全育成に取り組んでいる。ふれあいランドには毎回60人ほどが集っている。他に「親子で集うテビッコ広場」「ベビーマッサージ」等がある。
 31. 児童館は第二の児童相談所としての役割を担っている。児童が抱えている課題を深草子どもネットワーク会議(保育園や放課後まなび教室等)と連携し支援している。支援経過を「児童個別対応記録」に書き留めている。
 32. 毎年、学童クラブ・乳幼児クラブの保護者に対して利用者満足度アンケートを行い、年3回、保護者会を開催している。12月に館長が「学童保育で伸ばしたい力」をテーマに「子育て講演会」を開催している。地域向けの講演会や相談会を要請に応じて開催する体制を整えている。
 33. 週1回開催の年齢別の乳幼児クラブ(つくし・たんぼぼ・ひまわり)に毎回15組ほどが参加している。また、週2回、未登録の子ども等に対して「あそぼうDAY」を遊戯室で開催している。子ども等はお弁当持参で児童館ならではの遊具で遊んでいる。他に乳幼児親子に対して「深草ホットカフェ」「ベビーマッサージ」「ママヨガ」等を開催している。月3回(土)、運営協会の協力を得て定員15人の子ども食堂「ふかくさ亭」を開催している。学童クラブの児童が地域の人と会食を楽しんでいる。地域包括支援センターと共同で認知症サポート講座を開催している。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	34	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	a	a
		35	② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	b	b
	Ⅲ-1-(2) 利用者満足の上昇に努めている。	36	① 利用者満足の上昇に意図した仕組みを整備している。	a	a
		37	② 利用者満足の上昇に向けた取り組みを行っている。	a	a

[自由記述欄]

34. 職員は「京都市児童館・学童保育所職員研修」や法人主催のキャリアパス研修を履修している。他に、放課後支援員の認定研修や「子どもの『今』」をテーマにした子どもの権利擁護に関する研修等に参加している。履修表を整備し児童館職員の力量を高めている。

35. プライバシー保護について「学童クラブしおり」に明記している。プライバシー保護に関する規程・マニュアルを確認することが出来なかった。

36. 理念「みんなで育てる みんなが育つ みんなが支える深草児童館」に基づき、児童館の活動等に利用者の意向を反映させている。学童クラブと乳幼児クラブに対する「利用者満足度アンケート」を行い、玄関カウンターに意見箱を設置している。また、年3回、保護者会を行う等で利用者の満足度やニーズを把握している。アンケートは児童館の安全面・環境衛生面・保育の内容・情報発信面等多岐に渡っている。

37. 利用者のニーズに応え、防犯対策に防犯カメラ2台(人感センサー)や相手を確認できるインターホン等を設置し、遊戯室の衛生をワックスがけで保ち、床の段差を補強する等を行っている。他に保育内容や行事の改善を図っている。子ども食堂「ふかくさ亭」を月2回から3回に増やし、次年度からは毎週開催する準備をしている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	38	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a	a
		39	② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	a	a
		40	③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a	a

[自由記述欄]

38. 乳幼児クラブでは地域巡回の保育士による「子育てのイライラ アンガーマネジメント」の講座を実施している。また、親子で集うチビッコ人形劇・音楽療法士さんとあそぼう、食育講座等を実施し、遊びを通して地域の子育て親子が交流する機会を提供している。

39. 第三者への相談窓口を設置し、法人与児童館に苦情相談・解決の窓口を設置している。苦情を申し出た利用者に配慮した上で、苦情内容や解決結果などを「じどうかんだより」に公表している。事例で確認できた。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	41	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	a	a
		42	② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	a	a
		43	③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	a	a
	Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。	44	① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	a	a
		45	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a

【自由記述欄】					
<p>42. 児童館クラブと学童クラブ日々の活動を事業年間活動計画書に沿って、機能別・活動別に記録し活動状況報告にまとめている。</p> <p>43. 法人本部及び未来事業部とが組織的に課題に対する改善策・改善計画を立て取り組んでいる。児童館事業及び行事の実施記録を基に朝礼・昼礼・月2回の職員会議でサービスの内容を振り返り、児童の安全を守る活動や児童館外の活動を促進することを次年度の取り組みとしている。本年度は下校時の安全対策とともに、床の汚れや段差の補整等の環境改善に取り組んでいる。また、一大イベントである「夏まつり」の課題を割り出している。子ども食堂「ふかくさ亭」を次年度より月3回から4回に増やすことを計画している。</p> <p>44. 個々のサービスのマニュアルや手順書を子ども未来事業部とともに整備している。職員は児童館サービスに関する知識と技術を京都市児童館連盟や法人主催のキャリアパス研修で履修している。各種のマニュアルや手順書は児童の個性の尊重やプライバシー保護の姿勢を明示している。</p> <p>45. 子ども未来事業や法人グループの児童館、館内の諸検討会議で児童館の活動を振り返り、各種のマニュアルや手順書の見直しに反映させている。職員会議の議事録や職員ヒアリングで確認することができた。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。	46	① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	a	a
		47	② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	a
		48	③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a	a

【自由記述欄】					
<p>46. 児童館のサービスの実施内容を児童館日誌や学童クラブ日誌、必要に応じて別シートに記載している。個別支援を必要とする児童の支援については「児童個別対応記録」で確認する事が出来る。これらの日誌や記録を基に職員は情報を共有し、利用者に統一した適切な支援を行っている。</p> <p>47. 申請書類や個人記録等は管理規定に基づいて施設のある書庫に保管している。利用者に関する記録類は法人本部で管理している。</p> <p>48. 利用者に関する情報を朝礼や昼礼、職員会議で共有し、対応に齟齬が生じない様に意思統一を図っている。相談や苦情への対応は職員会議等で検討している。内容によっては非常勤職員や介助職員も情報を共有し、職員全てが責任ある姿勢を持ち対応できる様にしている。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	49	① 利用希望者に対して活動選択に必要な情報を提供している。	a	a
		50	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a	a

【自由記述欄】					
<p>49. ホームページの「日記」の欄で児童館の最新情報を発信している。児童館発行の「じどうかんだより」等の広報誌を毎月、地域の関係団体や組織に届けている。広報誌は月末に翌月分を配信し読者が児童館の情報を早めに確認できるようにしている。</p> <p>50. サービスの開始にあたり利用者等にサービスの内容についてパンフレットや学童クラブのしおり等で説明し同意を得ている。全職員が児童館のサービス全容を正しく説明出来るように努めている。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-(1) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	51	① サービス実施計画を適切に策定している。	a	a
		52	② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a	a

【自由記述欄】					
<p>51. 職員は、本人の学習面・行動面・対人関係等の情報を本人・保護者から聴き取り、これらの情報を職員会議で共有し共通認識の基で個別の指導計画を立てている。児童館の活動に個別援助と集団援助の観点から関わることが出来るように、個別・集団それぞれの援助に必要な知識と技術を研修で学んでいる。</p> <p>52. 職員会議で定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行い、改善策を立てている。また、計画を緊急に変更する場合は、京都市はぐみ局、法人本部、子ども未来事業部等に報告・相談し、迅速・適切に解決に向けて行動している。サービスの質の向上を図る為、策定した活動計画についてPDCAのサイクルを継続して実施している。今、法人の医療部門をバックにコロナウイルス等の感染症予防対策に取り組んでいる。</p>					

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【児童館版 付加基準】

評価結果対比シート

受診施設名	京都市深草児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 京都府認知症グループホーム協議会
訪問調査日	令和2年2月18日

A 児童館等の活動に関する事項

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-1 遊びの環境整備	53	① 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	a	a
		54	② 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	a	a
		55	③ 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	a	a
		56	④ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている	a	a
		57	⑤ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	a	a

[自由記述欄]
 53. 児童が館内で安全に過ごせる様に遊ぶ際のきまり事や約束事を遊戯室、図書室、育成室等に掲示している。決まり事や約束事は児童が納得して守れる様に、なぜそのきまりが大切なのかをやさしいことばで表現し、子どもの目の留まるところに掲示している。
 54. 日祝日、年末年始を除く毎日、地域の乳幼児親子や児童館の卒業生、自由来館の児童が利用している。月1回「深草あそぼうDAY」10時～15時、自由来館の親子や児童等が児童館ならではの遊具等で交流を深めている。
 55. 17時～育成室を中高校生に開放し、図書室に新旧2千冊ほどの本を揃え貸し出しもやっている。
 56. 月に1回開催の「ホットカフェ」が地域の子育て親子の交流の機会となっている。ふれあいスペースの廊下等も乳幼児の安全性に配慮している。
 57. 大学生や高校生等が週に1回から2回、1時間程度来館し、ボランティアとして学童クラブの児童に学習支援や遊び相手等で関わっている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-2 乳幼児と保護者への対応	58	① 乳幼児と保護者が日常的に利用している	a	a
		59	② 乳幼児活動が年間を通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	a	a
		60	③ 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	b	b

[自由記述欄]
 58. 週3回、乳幼児クラブの親子が自由にお弁当持参で来館し交流を深めている。また、図書室で読書し本の貸し出しを利用している。
 59. 会員登録制で年齢別の乳幼児クラブ(つくし(～1歳)たんぼぼ(～2歳)ひまわり(～3歳)>15組～20組が利用している。アンケートから得たニーズを基に地域の機関や団体と共同で、子育て講演(イヤイヤ期の対応・食育、歯の健康、音楽療法等)を開催している。児童館は子育てステーション事業を地域の子育て支援に関係する団体とやっている。
 60. 焼き芋パーティやいも堀り、親子遠足、プチ夏まつり等に父親も参加している。保護者は子どもの安全確保や荷物の運搬等を職員と協働で行っているが、保護者がイベントの企画や運営等を主体的に行うまでには至っていない。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-3 小学生への対応 (核となる児童館活動)	61	① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	a	a
		62	② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	a	a
		63	③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童が一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている	a	a
		64	④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている	a	a

[自由記述欄]
 61. 家族からの情報や児童館の生活を通して児童一人ひとりの心身の状態を把握している。職員会議やカンファレンスで対応方法を検討し記録に残している。職員は個別援助技術や集団援助技術を児童館の内・外の研修で学んでいる。
 62. 小学3年生から行事の企画から運営までを職員と一しょに取り組んでいる。
 63. 事前に見学や面談を行い提供サービスの内容の理解を得てから登録につないでいる。職員は研修で人権や障がい者支援について学び、研修の成果を伝達研修で伝えている。児童館職員全てが理解を深め対応できる様になっている。
 64. 行事の企画に利用者の意見を反映させている。「わんぱくランド」では一般来館の児童も参加し物づくりを体験している。他にダンスやドッジボール、将棋や折り紙などのクラブがある。ドッジボールクラブ(深草ドリームズ)は登録制であるが一般来館の児童も入会できる。

評価結果対比シート(児童館付加)

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-4 中学生への対応	65	① 日常的に中高生の利用がある	a	a
		66	② 中高生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	b	a
	A-5 利用者からの相談への対応	67	① 利用者からの相談への対応が自然な形で行われている	a	a
		68	② 虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている	a	a
	A-6 障害児への対応	69	① 障害のある児童の利用に対する支援策が整っている	a	a

[自由記述欄]

65. 17時～18時30分を中高生の利用時間とし育成室を開放し、カバン等の置場を設置している。図書室に中高生向きの本(漫画や辞書等)も揃え、貸出しも可能としている。「中学生と赤ちゃんと交流事業」である乳幼児クラブの「プチ夏祭り」や親子遠足等に中高生が参加している。
 66. 児童館では中高生の受入れ体制を整えている。中高生が「プチ夏祭り」やクリスマス会のパネルシアターや劇に参加している。
 67. 中高生の進路や学校生活の悩み等の相談や保護者の子育てや発達に関する相談には随時対応している。内容を記録に残し職員間で共有している。保護者会でイヤイヤ期の接し方、食事、歯の健康等、学童保育の活用、学童クラブでたくましく育つなどをテーマに講演会を開催している。
 68. 職員は虐待に関する対応やスキルを研修で学び、事例検討で理解を深めている。子育てネットワークの機関や団体と会合を持ち、事例には児童館ガイドライン等に基づき適切に対応できる様になっている。現在のところ事例はない。
 69. 保護者から相談があった児童への対応については、児童の特性を職員間で共有し理解を深める様に努めている。介助ボランティアを受入れ、児童館職員といっしょに障害のある児童の交流や遊びに関わっている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-7 地域の子育て環境づくり	70	① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	a	a
		71	② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	a	a
	A-8 広報活動	72	① 広報活動が適切に行われている	a	a
		73	② 児童館の活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるよう創意ある広報活動が行われている	a	a

[自由記述欄]

70. 児童館の理念「みんなで育てる・みんなが育つ・みんなが支える児童館」に基づいて、地域の運営協力会と協働で月3回子ども食堂「ふかくさ亭」を季節のメニューを取り入れて開催している。また、大学や専門学校等の教育機関や行政機関(区役所・保健センター・警察・消防署等)、ボランティア、NPO、地域の女性会等、地域の多くの組織や団体といっしょに地域の子育て支援を行っている。ファミリーサポート事業も行っている。
 71. 常に学童の登降経路の安全点検を行い、危険な場所に職員が交代で立ちし事故の防止に努めている。前庭の遊具の安全管理は地域の自治会や行政が行っているが児童館も常に安全点検を行っている。
 72. 児童館の行事やイベント等のお知らせをホームページや児童館(じどうかんだより)、学童(〇〇月のおたより)、乳幼児(のびのび通信)等の広報誌で利用者や地域に発信している。
 73. 広報誌(おたより等)はお知らせの要点を解りやすい表現で伝えている。また、広報誌の作成には、イラストや文字をカラー印刷し、児童館利用の保護者や地域の子育て親子が関心を寄せる様に工夫している。